

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【木崎中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題があると考えます。次年度も今年度同様、生徒が自立学習ができるように、授業における「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を継続して取り組ませていく。また、「読解力・言語能力の向上」を目指すため、朝読書を取り入れ読解力の向上を目指す。	
思考・判断・表現	今年度は、複雑な文章や資料等を読み取る「読解力」や自分の感情を適切な語彙で表現する「語彙力」の不足が見られた。次年度は、探究のプロセスの追究に加え、文章や図などを読み取り判断させるための読解力の向上、適切なコミュニケーションをとるため表現力の向上を身に付けさせるよう取り組んでいく。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得について偏りが見られる。 <指導上の課題> 自立学習を行う自信に関する調査について、全国平均を上回っているがさらに向上させたい。	⇒ 昨年度より行っている朝チャレンジの時間で生徒の情報活用能力を育成する。【通年・毎日実施】 生徒が自立学習ができるように、授業における「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。【通年実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分の考えを表現することについて偏りが見られる。 <指導上の課題> 授業において、生徒が考えをアウトプットする場面を多く設定する。	⇒ ICT等の思考ツールを授業で活用するための校内研修の時間を設け、子どもたちの探究のため、他者との対話や協働、自分の考えを明確にしたり、広げたり、深めたりする授業を目指す。【通年・年9回実施】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	生徒が自ら学習計画を立て、主体的に取り組む力を育てるため、朝チャレンジに取り組む2年目であるが、[R7さいたま市学習状況調査「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」]の質問項目において、肯定的な回答の割合が市を3学年平均で3ポイント上回ることができ成果が見られた。
思考・判断・表現	A	ICT等の思考ツールを授業で活用するための校内研修の時間を全体での研修以外にも自主的に参加する研修を設け、他者との対話や協働、自分の考えを明確にしたり、広げたり、深めたりする授業の実践に努めた。[R7さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」]の質問項目において、肯定的な回答の割合が学年を追うことに向上し、その成果が見られた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率において、全国平均を上回った。しかし、その項目の中の「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかを見る」の問題に課題が見られた。数学では、全体としては平均正答率が全国平均をやや上回った。特に「図形」において平均正答率が全国平均を大きく上回った。しかし、「数と式」において、やや課題が見られた。理科では「エネルギー」を柱とする領域と「粒子」を柱とする領域に課題が見られた。	
思考・判断・表現	国語では、全ての項目で平均正答率が全国平均を上まわった。特に「書くこと」についてはそれが顕著に見られた。数学では、知識・技能同様に「図形」において平均正答率が全国平均を大きく上回った。しかし、「データの活用」において、やや課題が見られた。理科では、「地球」を柱とする領域において平均正答率が全国平均を上回ったが、「粒子」を柱とする領域に課題が見られた。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	同一集団での経年比較により、国語・数学・社会・理科すべての教科で知識・技能において課題が見られた。どの教科においても、既習事項を確認したり、繰り返し学習することにより、さらなる定着を図っていく。経年変化のデータのない1学年においては、数学・社会・理科で知識・技能において市の平均正答率を数ポイントずつ上回った。全体として、さらに基礎的・基本的な知識・技能を強化していくことを教職員間で共通理解したい。	
思考・判断・表現	同一集団での経年比較により、国語の思考・判断・表現において改善が見られた。特に書くことについては、市の平均正答率も上回ることができた。本年度行ってきた授業改善の成果であると考えられる。探究のプロセスの実践する過程で、タブレットを活用して、考えたことを発表したり、友達と一緒に編集する授業を行っていった。また、「タブレットを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりする学習をすることができましたか。」の質問に対する肯定的な回答の割合は、全学年で市のポイントを上回った。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	今年度で2年目となる朝チャレンジは、生徒たちに浸透し、自分に合った勉強法を自分で考え取り組めるようになりつつある。また、各授業において、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を多くの教員が意識して、授業を展開している。	変更なし
思考・判断・表現	B	ICT等の思考ツールを授業で活用するための校内研修をここまで5回実施し、教員の意識を高め、探究のため、他者との対話や協働、自分の考えを明確にしたり、広げたり、深めたりする授業に取り組んだ。生徒もICTを思考・判断・表現に活用している。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)